

〈今月の紙面〉

- ・「食料・農業知っておきたい話」-158- (2面)
- ・農業物価指数 (20年を基準) (3面)
- ・ゆうき青森農協畜産共進会 (4面)
- ・外来種ドクニンジンを食べる蛾 (5面)
- ・乳中脂肪酸組成が受胎率に相関 (6面)
- ・交雑種牛飼養管理の要点① (7面)
- ・畜産物需給見通し (8面)

開拓情報

発行所
公益社団法人全国開拓振興協会
〒102-0093 東京都千代田区平河町1-2-10
TEL 03-6268-9995
FAX 03-6268-9996
ホームページ <https://www.kaitakusya.or.jp>
全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

表 合理的な価格形成についての検証

現状分析(施策の進捗状況・有効性)

- ・KPIである農業・食料関連産業の国内生産額は24年は増加している。
- ・25年度においては、指定5品目(米、野菜、飲用牛乳、豆腐、納豆)について、コスト指標作成に向けた民間主体の議論を後押しし、2団体(米、飲用牛乳)が認定申請。フードGメンによる実効性確保のための調査等を推進。また、消費者の理解醸成のため、広報イベント(4回)や中学校への出前授業(2回)を実施。

目標達成に向けて克服すべき課題

- ・コスト指標作成団体によるコスト指標の作成の後押しにとどまらず、コスト指標の取引現場や消費者への広報活動での一層の活用を促進する必要。
- ・コストを考慮した価格形成は消費者の購買行動に影響を受けるが、現状は消費者の理解醸成の取組にとどまっており、実際の購買活動に十分結びついていない。このため、行動変容につながる取組強化が必要。

課題への対応方向

- ・業界ごとのコスト指標の活用状況の検証や、消費者の属性ごとの有効な周知方法の検証等を行った上で、個々の取引や消費の実態を踏まえたコスト指標の理解・活用促進のための効果的なツールの開発・普及を推進。
- ・広報イベント等により消費者の認知向上と理解の裾野拡大を図るとともに、教育現場における情報発信を通じて、家庭への価格の背景に関する理解の浸透を図り、コストを意識した購買行動につなげる。

(農水省の資料を基に作成)

合理的な価格形成等の検証開始 基本計画 目標達成状況の把握へ

24年に改正された食料・農業・農村基本法では、少なくとも年1回は、基本計画で掲げた目標・KPI(重要度達成度指標)の達成状況を検証すると規定している。

農水省は、6月26日と7月24日に食料・農業・農村政策審議会企画部会を開催し、検証を開始した。

《合理的な価格形成》

基本計画では様々なKPIがあり、合理的な価格形成のKPIとして、「農業・食料関連産業の国内生産額」を採用している。22年の114・2兆円から、24年は120・7兆円と伸びている。目標は30年に150兆円。また、検証として表の

円、農地や農道・用水路などの施設が189億6000万円となった。農産物は、梨の落下の被害が約3億4500万円、被害面積が76haに及ぶ。生乳の廃棄が1・7tで被害額は21万円。水の供給不足によるトマトなどの作物被害についても調査している。

熊本地震によって亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様、そのご家族の方々に對しまして、心よりお見舞い申し上げます。開拓中央三団体役員一同、被災地の一日も早い復興を祈念いたします。

全日本開拓者連盟
全国開拓農業協同組合連合会(公社) 全国開拓振興協会

猛暑の中で懸命な復旧作業

令和8年熊本地震 震度7

7月28日午後4時27分頃、熊本県熊本地方を震源とする地震が発生し、同県宇城市と氷川町で震度7の揺れを観測した。気象庁によると、震源の深さは16km、地震の規模はマグニチュード7・1(暫定値)となっている。16年の熊本地震から10年、復興が進んできた矢先の被災となつてしまった。政府は8月7日、激甚災害に指定した。真夏の猛暑の中、懸命な復旧作業が続いている。全国からの支援や、ボランティアによる援助もあり、助け合い、励ましあいながら被災された方たちも頑張っている。

【8月12日現在の状況】

内閣府によると、人的被害として死者39名、負傷者357名。住家被害は全壊が1252棟半壊が1046棟で、一部損壊を含めた合計が1万1240棟にのぼる。避難所の数が83カ所で、避難者数は3646名となっている(最大時は9931人)。

ライフラインの状況として、水道は約2万9200戸が断水中で、応急給水を順次実施している。復旧については、8月末の断水解消に向けて取り組んでいる。電力は復旧しているが、都市ガスは八代市で1317戸が停止中。

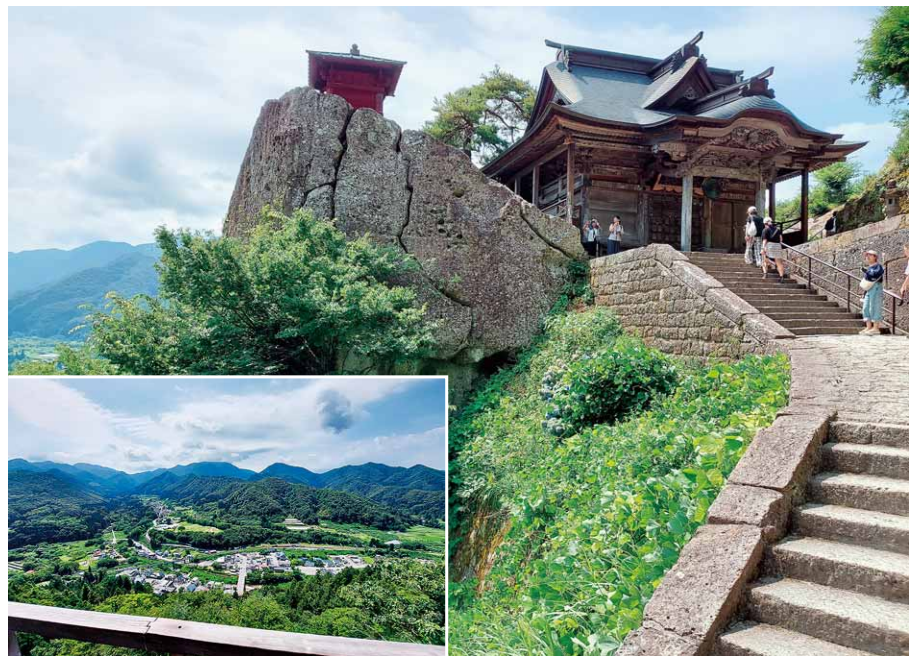
が停止中。

【農業被害】

熊本県が8月11日に発表した熊本地震における農業関係の被害額は、速報値で340億円となっている。

被害の内訳は、農作物が3億5000万円、農業用機械やハウス施設などが103億8000万円

蝉の声鳴り響く「山寺」と開拓地・山形



右が開山堂、中が納経堂。左下は五大堂からの景観

「閑さや岩にしみ入る 蝉の声」という一句は誰もが知っているだろう。「奥の細道」で松尾芭蕉がこの一句を詠んだ地として知られるのが山形市の山寺(宝珠山立石寺・860年円仁により創建)である。

千段ほどの石段を1時間近くかけて登ると、断崖に建てられたお堂がある。ここからは、門前町や田園風景など、山寺随一の絶景を一望できる。山形県の戦後開拓史によると、周辺には複数の開拓地が存在している。

山寺では蝉の声が鳴り響き、燦々たる陽光が降り注いでおり、夏の盛りを感じられた。

中東向け輸出再開

ハラール牛肉をUAEへ
ゼンカイミート(株)・全開連



全開連とゼンカイミート(株)は7月16日、熊本県錦町の工場内で、中東(UAE)向けハラール牛肉の輸出再開を祝い、出発式を開催した。

ゼンカイミート(株)は、20年7月の熊本豪雨災害で操業不能となり、23年9月に移転した。以前より中東や東南アジア各国からハラール認証を受けていたが、新工場となった後、改めて認証を受けなければならなかった。新工場はハラールの国内認証は既に受けていたが、相手先各国との交渉が難航し、タイ、香港に続きようやく今年5月にUAE、カタール、バーレーンに起きた熊本地震による工場の被害は少なく、現在も稼働している。

今後、インドネシア、マレーシアなど東南アジアの国々への輸出を目指していく。

なお、今年の7月28日に起きた熊本地震による



食料・農業 知っておきたい話 158回

稲作崩壊の危機

《備蓄米の補充とコスト割れ補填が急務》

東京大学大学院特任教授・名誉教授 鈴木宣弘氏

遅れた備蓄米放出
急速な「米余り」となり、「米不足」を強調した人は間違っていたのではないか、との指摘もあるが、その指摘は的外れだ。経緯をもう一度、確認しておこう。

結果的には、**①飼料米**などが主食米生産に移って25年産米は増加し、**②**放出が遅れた備蓄米が市場に残り、**③輸入米**が前年比95倍にも急増し、**④**高騰による米離れが重なり、民間の米在庫が急増した。

米騒動の要因は、**①単純に10万tの毎年の消費減を想定して10万t生産を減らせ**というギリギリの生産調整が、猛暑での生産の減り過ぎを招き、**②水田畑地化政策**(水田を潰せば一時金を支払う)、**③コスト高**でも続いた米価下落による農家の疲弊、**④小麦**などの値上がりから米への需要のシフト、などだった。

米は足りているとして備蓄米放出が遅れ、25年春先の「茶田買い」(田植え前からの高値契約)に始まる米争奪の集荷競争が過熱し、米価高騰が増幅された。

表 JAの概算金の動向

産地	銘柄	支払い形態等	26年	26/25対	25年
高知	コシヒカリ(～7/28)	JA県概算金	14,000	▲8,000	22,000
	南国そだち(～7/28)	(出荷奨励金として)	14,700	▲8,000	22,700
	よさ恋美人(～7/28)	60kg/1500円加算)	14,000	▲8,000	22,000
宮崎	コシカ(早期～7/24)	主食集荷協同組合	18,000	▲12,000	30,000
	コシカ(早期～7/29)		17,000	▲12,000	29,000
	コシカ(早期～8/13)		16,400	▲12,000	28,400
	コシカ(早期～8/14)		15,800	▲12,000	27,800
	コシカ(早期～7/24)	～24年産・JA県仮渡金 25年産・JAみやざき 仮渡金	18,000	▲14,600	32,600
	コシカ(早期7/25～8/15)		17,400	▲14,600	32,000
鹿児島	コシヒカリ(～7/28)	JA仮渡金	20,600	▲6,400	27,000

*「JA概算金・買取価格」は単協が生産者に支払う金額 資料：湯川喜朗氏調べ

準で26年産米の産地の取引価格が踏みとどまれば、というのが米の生産・流通業界の期待だった。流通業界の期待だったが、すでに、現場では、2万円を割り込む米価がと概算できると、1・5万円に近づくと、小売米価は3000円/5kgを切り、消費者は買いやす価格になるが、イラ半分近くまで急落しており、さらに、千葉県の概算金が1万8000円、熊本県が2万7000円、三重県も1万5000円前後と発表された。

ホルムズ海峡の封鎖で生産コストがさらに高騰し、大規模層でも2万5000円はないと苦しい現状で、この水準の米価が広がったら、中小規模の稲作農家だけでなく、相当程度の大規模農家も赤字に陥り、日本中で稲作農家の経営継続が困難な事態となる。

生産者米価と小売米価との関係は、おおよそ、JAの概算金は、昨年の半分近くまで急落しており、さらに、千葉県の概算金が1万8000円、熊本県が2万7000円、三重県も1万5000円前後と発表された。

生産者米価 60kg	小売米価 5kg
1.5万円 → 2,500円	
2万円 → 3,000円	
2.5万円 → 3,500円	
3万円 → 4,000円	

市場に出された備蓄米の買戻しについては「米価高騰を画策するのかが」との批判があるが、それは間違いだ。15日分しかないので、米備蓄を回復するのは食料安全保障上も急がれるべきだし、極端な米価暴落は回避する必要がある。米農家が激減してしまったら、国民

の食べる米が消えてしまう。消費者は米価下落による短期的な利益にばかり目を奪われると、中長期的に自分達の命を守る、縮小均衡で市場がなくなってしまう。

何ぞとだけ作付けする場合は農家の自由任せ、需給に余裕を持たせ、備蓄米の機動的運用で需給と価格の安定を図りつつ、農家のコスト割れを補填して消費者は安く買え、農家は所得確保して増産できるようにする。

食料危機に耐えられる米備蓄積み増しは「国防」上の需要だし、輸入小麦や輸入トウモロコシを米で代替する需要創出にも積極財政が不可欠だ。

時間ズレが生じてチグハグになり、過剰と不足を増幅し、農家も業界も疲弊してきた。

食料自給率が低いというところは「国産に過剰は存在しない」「国産は足りていない」のだ。だから加速している農家の減少に歯止めをかけ、増産して輸入を国産で置き換えていくことが不可欠だ。

食料危機のリスクが間違いない高まっているときに、米も酪農も生産抑制している場合ではない。

また、フードバンクや子供食堂への提供など内外援助にも活用し、輸入チーズを国産で代替する需要創出にも積極財政が不可欠だ。

配合基金第1四半期2950円

中東情勢・円安等で2期連続発動

（一社）全国畜産配合基金の補填交付案件は、平均輸入原料価格(トウモロコシ・マイロ・大豆粕・大麦・小麦の平均輸入原料価格)が基準輸入原料価格(直近1年間の平均輸入原料価格)を上回った場合となる(表参照)。

これは、中東情勢が非常に不安定な状況となっており、輸入飼料原料相場も不安定となっていること、為替相場の円安が大きな要因となっている。

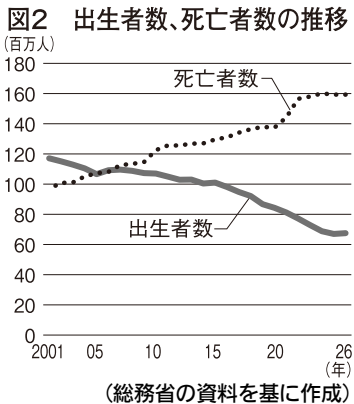
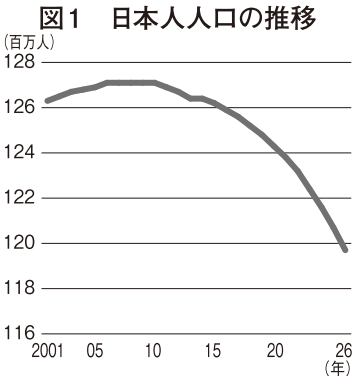
	平均輸入原料価格	基準輸入原料価格	差額
25年度第1	43,757	45,775	▲2,018
第2	41,957	44,815	▲2,858
第3	41,261	43,559	▲2,298
第4	44,877	43,088	1,789
26年度第1	45,920	42,928	2,992

(畜産基金の資料を基に作成)

日本人の人口92万人減

総務省 外国人は35万人増

総務省は7月29日、住民基本台帳に基づく26年1月1日現在の人口を発表した。



日本人の人口は1億974万人で、前年より約92万人(0.76%)の減少となった(図1)。

おり、17年連続の減。減る(図2)。日本人の人口を都道府県別に見ると、東京都以外の46道府県は全て減少している。

一方、外国人の人口は、コロナ禍後の23年以降増加しており、26年は約403万人となっており、前年より35万人(9.6%)の増加となった。

本紙は無償で提供しています。
ご希望の方はお知らせ下さい。

農業生産資材価格指数が130超

26年6月 農業物価指数(20年を基準)

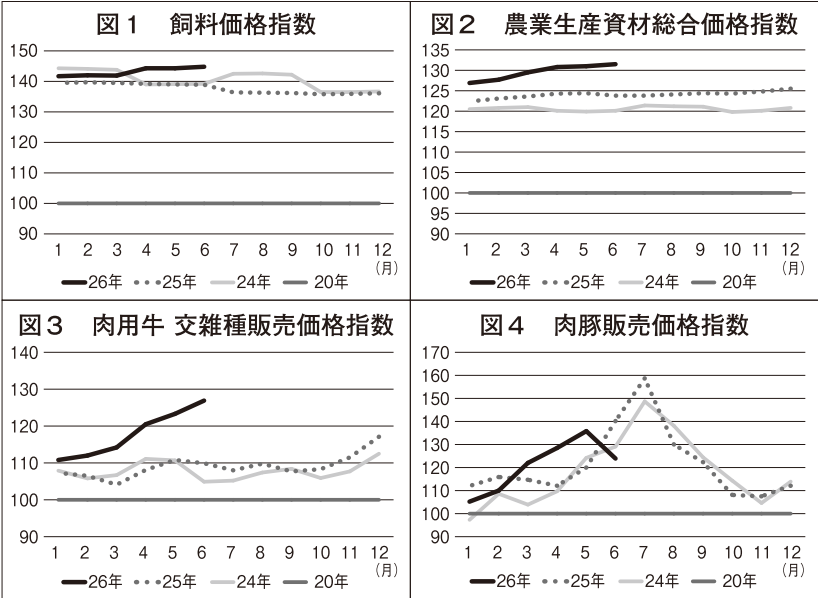


表 26年上半期 農林水産物・食品 輸出額			
品 目		金額(百万円)	前年同期比
畜産物		58,702	7.9
	牛肉	36,931	13.4
	豚肉	1,536	14.9
	牛乳・乳製品	14,987	▲4.8
米		7,561	11.6
リンゴ		6,615	39.6
イチゴ		5,834	10.1
カンキツ		710	13.8
緑茶		48,252	83.5
加工食品		308,756	10.9
農産物計		567,403	8.5
林産物計		39,392	6.2
水産物計		238,356	19.5
農林水産物・食品計 (少額貨物を除く)		845,151	11.3

(農水省の資料を基に作成)

日本食人気で 農産物輸出額過去最高

26年上半期 農林水産物輸出実績

農水省は8月4日、26年上半期(1～6月)における農林水産物・食品の輸出実績について公表した。農産物(加工食品

農水省は8月4日、26年上半期(1～6月)に比8・5%増の5674億円となった(表)。

品目別では、牛肉、米、リンゴ、緑茶など多くの品目が、上半期の輸出額として過去最高を記録した。日本食への関心の高まりや、インバウンドによる日本食・日本産品の認知度向上、健康志向の高まりなどにより、これまでの取扱量の拡大や、新規の獲得などが増加の要因となっている。

畜産では、牛肉が同13・4%増の369億円となった。これは、台湾、タイ向けの既存商流が拡

農水省が7月31日に公表した「農業物価指数(26年6月)」によると、農業生産資材価格指数(20年の価格を基準値の100とする)のうち、畜産の飼料の価格指数は144・8で、実に、22年4月から4年以上にわたって135を超えた動きとなっている(図1)。

飼料の価格指数は、25年から緩やかに下降傾向となっていたが、今年に入ってから再び上昇傾向となっており、前年同月比17%上昇の126・9となった(図3)。

しかし、中東情勢悪化など世界情勢が混沌としている中、飼料価格が高止まれば、基金の発動もなくなってしまう。

配合基金制度の改革も、販売価格の形成も、今すぐに対処しなければならぬ、重要な課題だ。

より低い推移となっており、飼料価格指数には遠く及ばない。

枝肉価格が堅調な肉豚でも、指数が130を超えたのは例年4～9月に限られており(図4)、飼料の指数高騰には追い付けない。

今年に入ってから配合飼料価格が上昇してきたため、配合基金補填金が発動されており、7～9月も値上がりすることから、補填金も続く見込み。

満州から続く助け合いの精神 群馬県北軽井沢・甘楽開拓



左から満州開拓記念碑、開拓者供養塔、甘楽入植30年記念碑

群馬県北軽井沢の甘楽開拓は、浅間山の北麓に位置し、標高1000mの高冷地で、火山灰土の酸性土壌となっている。1937年、群馬県南

西地域の甘楽郡の人たちを中心に満州開拓に参加し(九道満甘楽開拓団)、終戦時には600人の大集団となっていた。

終戦直後から帰国する

まで、実に苦しい状況であったが、同開拓団は、武器を手放したこと、家財を現地民に進んで渡し、元々現地民と親しく、開拓地に留まったことなどにより、他団より比較的被害が少なく、1年で帰国できた。

故郷に帰っても困窮は続き、48年から北軽井沢に新たな甘楽開拓就農組合として入植した(28戸)。

北軽井沢には大屋原開拓、北軽井沢開拓が先に入っており、これらの地区を避けて入植地を選定することとなった。住居は熊笹などでの掘立小屋で、冬には朝起きたら布団が雪で真っ白になっていたこともあった。

満州開拓記念碑、開拓者供養塔に並び、79年に甘楽入植30年記念碑が建てられた。

北軽井沢農協が48年に設立され、甘楽開拓就農組合からも役員が選出された。北軽井沢開拓の二大営農支柱は酪農と野菜となり、紆余曲折ありながらも伸びていった。

キティ台風(49年)や二年連続の凍霜害などの自然災害に立ち向かい、また、再三の火事にも屈することなく、この地を発展させていった。

これは、満州時代からの開拓者相互の助け合いの精神と、新しい第二の村造りに打ち込んだ不撓不屈の心意気によるものであった。

9月に予定されている開拓組織の主な行事は次のとおり。

農水省 主な人事異動

(8月6日付)

農林水産省(少額貨物を含む)として多く出荷された。

豚肉は、スペインのアメリカ、カナダ等の国産豚肉価格の高騰により需要が増え、今期は同14・9%の増加となった。

緑茶は、増加率が一番大きく、同83・5%増の483億円と、大きな伸びを示した。これは、欧

米やASEAN向けが、ラテやスイーツ等の食品原料として、抹茶を含む粉末状茶を中心に増加したとみられる。

米も日本食への人気や

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく、米国が同15・3%増の1626億円と最も多かった。

また、韓国やベトナム

次長) 谷村栄二

国・地域別の輸出額は、前年と同じく

図1 取組A
産地を支援する取組

食品製造事業者等が産地を支援する以下ア～オ又はこれらに類する取組に係る経費を補助

- ア 求める品種を産地に生産してもらうための産地への種苗の提供
- イ 産地に引き受け量拡大に対応してもらうための産地への収穫機械の貸与
- ウ 産地に加工ニーズに合致した食品原材料を出荷してもらうための産地への選別機の貸与
- エ 産地に加工ニーズに沿った良質・多量な食品原材料生産をしてもらうための、食品製造事業者等の社員等を産地へ派遣した生産作業補助又は専門家や篤農家を産地へ派遣した栽培技術等指導
- オ 本事業に関係する産地側の建屋内に設置され、産地連携計画等において記載された農林水産物の保管に用いるための、当該建屋と一体でない設備の設置

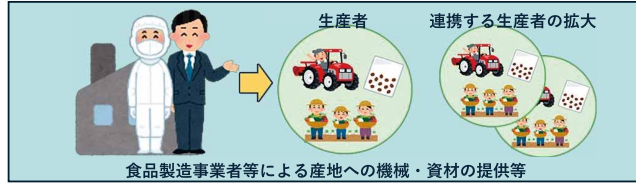


図2 取組B
産地との連携による国産食品原材料の取扱量増加の取組

産地との連携による国産食品原材料の取扱量増加に伴う機械設備等の導入、新商品等の開発・製造等の取組に係る経費を補助



図1、2ともにJTB及び農水省の資料を基に作成

25年度補正予算農林水産省補助事業産地連携支援緊急対策事業「産地連携支援緊急対策事業」の募集が8月31日から開始される。公募締切は9月16日17時までだ。「国産原材料の取扱量を増やすための、製造設備を導入し、産地を支援する」「取組たい」「生産者や産地とA」と、産地との連携による国産食品原材料の取扱量増加に伴う機械設備等の導入、新商品等の開発・製造等の取組に係る経費を補助

国産原材料取扱量増加等を支援
産地連携支援緊急対策事業

25年度補正予算農林水産省補助事業産地連携支援緊急対策事業「産地連携支援緊急対策事業」の募集が8月31日から開始される。公募締切は9月16日17時までだ。「国産原材料の取扱量を増やすための、製造設備を導入し、産地を支援する」「取組たい」「生産者や産地とA」と、産地との連携による国産食品原材料の取扱量増加に伴う機械設備等の導入、新商品等の開発・製造等の取組に係る経費を補助

Gチャンピオン

肉用牛 浜田竹美氏
乳用牛 斗米伸也氏
ゆうき青森農協畜産共進会



⑤肉用牛の部 Gチャンピオン牛、⑥乳用牛の部 Gチャンピオン牛(右)

ゆうき青森農協は7月24日、上北郡七戸町の県家畜市場で、第13回畜産部門で審査が行われた。肉用牛の部には黒毛和牛種若雌・繁殖雌計24頭、乳用牛の部にはホルスタイン種未経産牛14頭、経産牛17頭、合計55頭が出品され、体型や発育状況、歩いた時の姿勢などを競った。

審査の結果、肉用牛の部では浜田竹美さん(東北町)の出品牛がグランドチャンピオンを受賞。乳用牛の部では斗米伸也さん(横浜町)の出品牛がグランドチャンピオンに輝いた。浜田さんは初めて、斗米さんは3度目のグランドチャンピオン受賞となった。

夏の暑さにちよいと、ヨーグルトで水分保持習慣を

ヨーグルトで水分保持習慣を

「ミルクは国産牛乳・乳製品の消費拡大に取り組み官民プロジェクト」26年7月下旬から、日常

生活にヨーグルトを気軽にプラスする新しいライフスタイル「ちよいとグルト」の提案を開始した。「ちよいとグルト」をプロジェクトの合言葉に掲げ、特に、ヨーグルトの喫食機会が少ないとされる若年層を中心に、現代人の多様なライフスタイルや多忙な生活の合間に食べられる、スキマ時間にフィットする「生活適食品」としてのイメージ定着を目指していく。

今夏の主な実施予定施策は、①テレビやSNS等での若年層向けの「暑さにちよいと、夏グルト」の「体の水分保持したい」といったメッセージを伝える新CMの配信、②「夏のしんどさ」に関する情報を集めるWEBバナーの配信③SNS公式アカウントでの、若年層が真似をしたくなるビジュアルで話題化を図った「フローズンヨーグルト」や「ヨーグルトかき氷」などのアレンジレシピ動画の展開・配信、④「暑さにちよいと、夏グルト」を設定。汗をかいて体内の水分が失われがちな暑い季節に、こまめな水分補給と併せて、乳タンパク質による体内の「水分保持」のため、暑さ対策の新習慣を提案している。



「暑さにちよいと、夏グルト」のビジュアルイメージ

Jミルクの資料から

25年度 参画状況調査

女性農業委員14・8%に

25年度 参画状況調査

農水省は6月9日、25年度の「農業委員への女性の参画状況」を公表した。女性農業委員の登用は増加が続いている。全国の女性農業委員は3400人で、前年から77人増。全農業委員(2万2933人)に占める割合は14・8%(0・4増)で、増加が続いている。

女性が発用されている委員会数は1527団(0・1増)、次の二などで、統一キービジュアルを用いた店頭POPを用いた店頭販促(POP・サイネージ)の展開、⑤「ちよいとグルト」のコンセプト概要や「ヨーグルトのちよといこと」コーナー、CMやテレビ動画などを集めた特設ページの開設などを予定している。

同企画をはじめとするヨーグルト摂取の新ライフスタイル提案企画は、ヨーグルトの原料の1つである脱脂粉乳の需給バランス改善など酪農業界全体の課題解決につながるため、25年から推進されている。

昨今、ニュースでヨーグルトが熱中症対策に多数登場し話題となった。積極的に摂食し、熱中症を予防したい。

で岡山県7・8%(0・3増)、愛媛県9・7%(0・3増)の順だった。

なお、第6次男女共同参画基本計画(26年3月閣議決定)の成果目標は、表のとおりで、目標を達成している市区町村(農業委員に占める女性の割合30%)は、124団体だった。うち、5割を超えているのは、沖縄県座間味村の66・7%、島根県川本町の60・0%、東京都三宅村及び長野県宮田村の50・0%などの4団体となっている。

項目	成果目標(期限)
農業委員に占める女性の割合	
女性委員が発用されていない組織数	0(2030年度)
農業委員に占める女性の割合	20%(早期)、更に30%を目指す(2030年度)
農業協同組合の役員に占める女性の割合	
女性役員が発用されていない組織数	0(2030年度)
役員に占める女性の割合	15%(早期)、更に20%を目指す(2030年度)
土地改良区(土地改良区連合を含む。)の理事に占める女性の割合	
女性理事が発用されていない組織数	0(2030年度)
理事に占める女性の割合	10%(2030年度)

※2025年度は第5次男女共同参画基本計画(2020年12月閣議決定)の最終計画年度であるが、同報告作成時点は第6次男女共同参画基本計画が決定されているため、第6次男女共同参画基本計画の参画目標について記載。

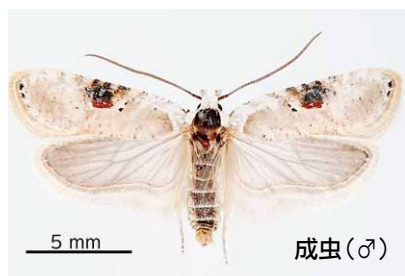
農水省の公表資料を基に作成

外来種が外来種の毒草を防除 ドクニンジンを食べる蛾

東京農業大学などの研究グループは、強い毒を持つ侵略的外来種のドクニンジン（セリ科、以下同毒草）のみを食べる蛾を国内で初めて確認し、生体情報や発生状況を明らかにした。

同毒草はヨーロッパ原産の植物で、有毒アルカロイド物質を含み、古代ギリシアではソクラテスの毒殺に使われたとされている。世界各地に侵略的な外来種として侵入しており、土壌への毒の蓄積による農畜産業への被害や、山菜のシャクとの誤認による中毒事故が国内でも発生している。

「ドクニンジンヒラタマルハキバガ（以下、同虫）」は、幼虫が同毒草のみを食べる蛾で、同毒草の侵入に伴い、同虫も世界各地で発見されている。12



年、北海道で同毒草の駆除活動を行った際、同毒草の葉を巻いた同虫が発見された。幼虫は緑色で、年1回、北海道では5～7月に発生する。同毒草の葉を筒状に巻いて巣を作り、周囲の葉・花・実を食べる。幼虫の数が多い株では、葉を食べつくしたのちに茎の表皮も食べる様子が確認された。

同虫は成虫期の長さや扁平な形状であることに加え、移動性が低いこ



とから、輸入資材などの隙間に潜んで移入し、国内の同毒草の群落で個体数を増やしたとみられている。なお、同虫の移入に伴う生態系などへの影響は確認されていない。

研究グループによると、同虫が現在確認されているのは北海道札幌市近郊の5地点だが、同毒草は東京都、千葉県、山梨県、三重県、岡山県など本州の数県でも目撃されているため、同虫が道外でも発見される可能性がある。幼虫は同毒草のみを食べるため、本種



写真は全て東京農業大学の提供

が見つければ周辺に同毒草がある可能性が高いため、未確認の同毒草を見つけ出す目的での利用も考えられる。

また、海外では生物的防除剤として導入された事例もあるが、自然下では年1回の発生であることや、幼虫期間も短いことから、あまり有効な防除剤になっていないとされている。しかし、これらの課題を解決できれば有効活用できる可能性があり、応用研究での利用が期待されている。

「日本茶」を地理的表示 GI 登録 模倣品対策に期待

農水省は7月10日、「日本茶（日本国）」を新たに地理的表示（GI）として登録した。日本全国を対象産地とした製品の登録は初めてとなる。今回の登録で、日本国内のGI登録産品は170産品となった。

地理的表示（GI）保護制度は、その地域ならではの農林水産物・食品の名称を、その地域における知的財産として保護する仕組み。海外で茶製品の流通量が増加する中、外国産の「宇治抹茶」、「静岡煎茶」などの知的財産の侵害が多く確認されていた。そこで日本茶業中央会は、茶業の全国団体として、日本産茶を包括する「日本茶」について、昨年より申請を行っていた。

今回の登録により、「日本茶」という名称の不正使用に対し、国外（EU 及び英国）との相互保護や模倣品対策の充実により、模倣品の排除や不正利用の防止を可能とし、登録産品として日本茶ブランドを保護できるようになる。

GI マーク（図）を産品に貼付することで、輸出先国のみならず国内でも、



本物の日本茶のGI産品であることを示すものとなり、他産品との差別化を図ること（＝ブランド化）が可能となる。使用例として、包装、容器、広告、レストランのメニュー、チラシ等、幅広く使用することができる。具体例としては、日本茶と併せて宇治抹茶等の地域名称や個社のブランド名称を商品の容器包装等にセットで表記することで、日本茶全体の知的財産の保護と更なる輸出拡大に繋がることが期待されるところとしている。

なお、「日本茶」におけるGIマークの使用にあたっては、同会への届け出や同会の会員または子会員等の構成員である必要があるなどのルールがあり、無断使用はできないため、注意が必要だ。

タイヌビエが未使用農薬にも抵抗性 別の除草剤への適応で獲得

東京農工大学などの研究グループは、水田雑草タイヌビエが一度も使われたことのない合成オーキシシン系除草剤に抵抗性を示す仕組みを解明した。

除草剤抵抗性雑草は大きな問題となっており、特に複数の除草剤に同時に抵抗性を示す「多剤抵抗性雑草」の拡大が深刻化している。グループは、多剤抵抗性の主な要因の一つとして、「シ

トクロムP450（以下、同酵素群）」という酵素が除草剤を解毒していることを明らかにしてきた。

タイヌビエから特定された同酵素群は複数の除草剤を分解できることは分かっていたが、これまでに報告されていた除草剤とは性質や化学構造が大きく異なる合成オーキシシン系除草剤に対しても、同じ酵素によって抵抗性も

複数の土壌病害発病を抑制 世界初の拮抗細菌を発見

土壌病害は、土壌中に生息する病原菌によって植物が発病する病害の総称だ。発病すると植物の生育が阻害され、生育不良や枯死の原因となる。病原菌は土壌中に長期間残存するため、感染した植物が枯死した後も、次に植栽した作物が再び発病するなど、被害が長期化する特徴がある。

一方で、従来の化学農薬を用いた土壌消毒から、生産者が省力的・経済的に取り組みやすい新たな防除対策への転換や、環境負荷の少ない防除技術の開発が求められている。

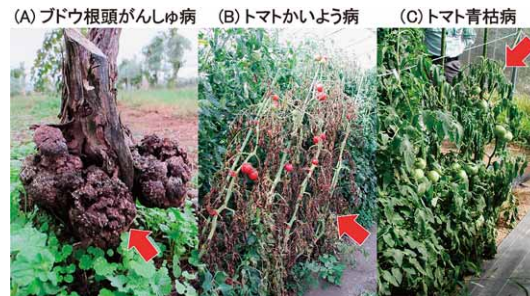
そこで、農研機構は他の微生物の生存や増殖を抑制する性質を持つ「拮抗細菌」を生産現場で探索した。その結果、複数の土壌病害の発病を抑制でき

る拮抗細菌の新菌株「A3株」を発見した。複数の土壌病害を抑制できる拮抗細菌の発見は世界初となる。

同機構の検証（苗の根をA3株の菌液に浸した後、各病原菌に汚染された土壌に定植）では、ブドウ根頭がんしゅ病、トマトかいよう病、トマト青枯病の3種類の土壌病害に対し、発病個体数を73～89%抑制する高い防除効果が得られた。さらに、A3株が土壌病害だけでなく地上部から感染する病害に対しても有効か検証（苗の葉にA3株の菌液を散布後、各病原菌を接種）した結果、ハクサイ黒腐病、ハクサイ黒斑細菌病の発病個体数が、62%、65%それぞれ抑制されることが確認された。

同機構は、土壌病害に対して、苗の根を培養菌液に浸すという単純な処理方法で高い防除効果を示したことから、A3株は土壌病害に対する有効な対策として期待されるとしている。今後は、発病を抑制する仕組みを解明し、ほ場試験による評価を行い、生物農薬としての実用化を目指すとしている。

図1 農業生産現場で問題となる代表的な土壌病害の症状



※各図の赤い矢印は発病部位・症状を示す 農研機構の資料から

たらされているのが不明だった。

米国カリフォルニア州では、ある除草剤を繰り返し使用していた水田から、その除草剤が効かないタイヌビエが見つかった。今回、このタイヌビエが、これまで使用されたことのない合成オーキシシン系除草剤に対しても抵抗性を示すことを明らかにした。過去に使用された別の除草剤に適応する過程で獲得した分解能力が、将来導入され

る新しい除草剤も分解してしまう可能性があることが分かったほか、除草剤を分解する仕組みの一端も解明した。

複数の除草剤に抵抗性を獲得したタイヌビエが日本でも発見されている。同グループは、今回得られた知見を基に、分解による影響を受けにくい新規除草剤の設計への応用など、国内で拡大しつつある抵抗性雑草の防除に役立てることが期待されるとしている。

乳中脂肪酸組成が受胎率に相関 「デノボ脂肪酸」チェックで簡易判定

農研機構と北海道酪農検定検査協会は「デノボ脂肪酸」が、乳牛の受胎率と相関していることを発見したと公表した。

エネルギー不足による不受胎が懸念される牛を簡易に抽出できるほか、受胎しやすい牛への遺伝的な改良にも活用が期待できる。

▽デノボ脂肪酸は、乳牛の栄養

・健康状態を反映して変動する。健康と連動する他の乳中成分の指標はエネルギー不足との関連性が複雑だが、乳中脂肪酸組成（デノボ脂肪酸はこのうちの1つ）はエネルギー不足との関連性や変化する理由が明確なため、乳用牛のエネルギー不足をより正確に判別できる指標として期待されている。

▽まず、分娩後初めて測定したデノボ脂肪酸と初回授精受胎率の相関を調べると、表のとおり相関があった。初回検定（分娩後62日以内）のデノボ脂肪酸が低いグループは初回授精受胎率

分娩後の初回検定でのデノボ脂肪酸のグループ	脂肪酸割合	初回授精受胎率
1(最低)	0.1～20%	87.1%
2	20.1～23%	91.0%
3	23.1～26%	92.1%
4	26.1～29%	95.5%
5	29.1～32%	97.2%
6(最高)	32.1%以上	100%

※グループ6を100%とした受胎率の変化率

農研機構の資料から作成

が低いと、今後受胎しにくい牛を判別する指標として利用できることが明らかになった。

▽また、よりエネルギー不足に陥りやすい分娩後早期（35日以内）のデノボ脂肪酸が低いと、分娩後95日以内の初回授精の受胎率が低かった。さらに、初産後のデノボ脂肪酸割合と初回授精受胎率には遺伝的な関連性が認められた。これにより、デノボ脂肪酸割合の高い牛を選ぶことで、初回授精受胎率の改良効果を高められる可能性が期待できるとしている。

「マイクロ MIX 法」のその後 様々な病原体に効果

本紙799号で紹介した新たな消毒法である「マイクロ MIX 法(以下、MIX 法)」は、(公社)畜産技術協会の竹原一明氏が開発した、逆性石けん＋マイクロ水酸化カルシウム（食品添加物規格かつ平均粒子径10μmの水酸化カルシウム）を水に溶かした消毒薬を使った消毒法で、同氏による様々な温度下での実験による効果から、幅広いウイルスや細菌への効果が期待されていた。

約2年の時を経て、「マイクロ MIX 法の家畜伝染病等の病原体に対する消毒効果」と題した講演会が7月6日に開催され、広く世界的に問題になっている畜産のウイルスや細菌に対して、継続検証の結果が報告された。

～「液相混和試験」と「キャリア試験」を実施～

竹原氏は今回、マイクロ MIX 法により畜産現場での利用可能性を追求するため、畜産現場や通常の実験施設には病原体を持ち込めない「パイオセーフティーレベル3（以下、レベル3）」を含む病原体、**①**口蹄疫ウイルス**②**ランピースキン病ウイルス**③**高病原性鳥インフルエンザウイルス**④**豚繁殖・呼吸障害症候群(PRRS)ウイルス**⑤**炭疽菌芽胞の5種類について、病原体と消毒液と反応停止液を用いる「液相混和試験（病原体に有機物（牛胎児血清）を添加（以下、「液体法」））」と、

病原体をプラスチック板に塗って消毒液を滴下する「キャリア試験」の2つの方法を用いて、試験を国内でレベル3の病原体を扱うことができる農研機構動物衛生研究部門（以下、動衛研）に委託し、実験を行った。

①口蹄疫ウイルスは、キャリア試験は実施できなかったが、室温・低温いずれにおいても1分以内に不活化された。**②**ランピースキン病ウイルスは、室温・低温いずれにおいても液体法・キャリア試験ともに、5分以内に検出限界までウイルスが不活化された。**③**高病原性鳥インフルエンザウイルスは、室温で3分間で1000分の1以上不活化された。また、4℃でも1時間で1000分の1以上不活化された。一方、キャリア試験では室温・4℃いずれも1時間で不活化されなかった。

④豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルスは、室温条件下で0.2%マイクロ水酸化カルシウム単独溶液と混和したところ、1分以内にウイルス感染価が1000分の1以下にまで低下した。**⑤**炭疽菌芽胞については、夏を想定した30℃環境下で有機物添加無しの状態の72時間の試験でようやく1000分の1以下になったが、冬を想定した4℃環境では効果がみられなかった。

～コクシジウムへの効果～

次に、北里大学との共同研究でコク

バイオガス発電設備 農場に合ったサイズでふん尿を有効処理

牛・豚などのふん尿のほか、食 図 中小規模でのバイオガス発電のイメージ

品残さ、有機汚泥、紙、草などを同時にメタン発酵させることができることで、中小規模の酪農場や養豚農場で導入可能なバイオガス発電機を開発した、豊橋技術科学大学の認定ベンチャーである、(株)豊橋バイオマスソリューションズの技術を紹介する。

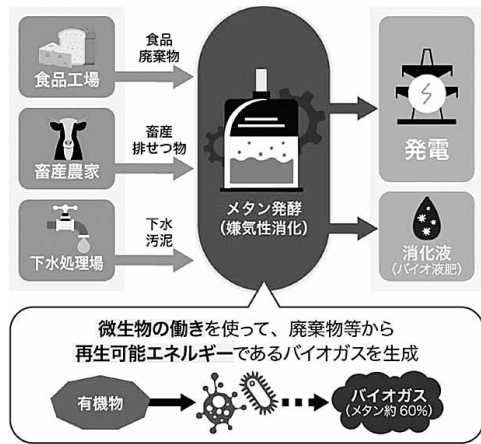
～自牧場のふん尿を資源に～

この方法は、図のように、畜産排せつ物を原料として取り扱える。そのほか、現行法では地域自治体との交渉が必要となるが、食品工場などの廃棄物や、下水汚泥や紙、草刈りの後の雑草などを、混ぜた状態で一緒にメタン発酵させることができる。発酵によって出るバイオガスで発電し、消化液（発酵後液状残さ）はバイオ液肥として利用することができる。また、利用しきれなかった液体は、排水処理設備で河川に放出できるレベルまで処理することができる。

敷料のおが粉などは問題がない一方、「リグニン」が含まれる固い木は、機械の故障に繋がるため投入を避ける必要がある。その他、発酵により危険な気体である硫化水素が発生する「硫化アリル」を含むタマネギ・ニラ等も投入は薦めないとのことだ。

～食品未利用資源を原料としたメタン発酵助剤も活用～

同社らの取り組みとして、食品廃棄物を乳酸発酵し製造した発酵助剤は、ふん尿のメタン発酵に足すことで発電



（株）豊橋バイオマスソリューションズの資料から

量を増加させることができている。これにより、事業性を向上させている。

なお、発電所を動かすエネルギーは投入するバイオガスと排熱で賄うことが可能であるため、別途のエネルギーは必要ないとのことだ。現在、近隣に牧草地がない地域の養豚農場では、スーパーの食品残さから発電しつつ養液液肥もトマト栽培に利用し、同スーパーでそのトマトを栽培する取り組みを行っているようだ。

発電だけに着目すると、FIT 制度（「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」、コストの高い再生可能エネルギーの導入を支えるためのもの）の買取期間は20年となっており、プラントの建築資材等の価格が導入当初より高騰している厳しい状況だが、牛や豚を守り生活を守るための選択肢の1つとして、国だけでなく県や自治体の補助金を活用し、選択肢として検討する価値があると考えられる。

シジウムオーシスト（原虫卵）への効果を①オルソ剤を水で100倍希釈②オルソ剤を0.2%マイクロ水酸化カルシウムで100倍希釈③オルソ剤をマイクロ MIX 混合液で100倍希釈④マイクロ MIX 混合液の4つの消毒液で試した。オルソ剤単体では、10分経過後、30分経過後で共に30%程度しかオーシストが減少せず、マイクロ MIX 混合液でオルソ剤を100倍希釈した消毒液では、10分感作で87%、30分感作では93%、60分感作では99.7%が破壊された。オルソ剤を加えない MIX 法のみではオーシストの破壊は認められず、オルソ剤と MIX 法で破壊に対しての“相乗効果”が認められ、この結果は Avian Diseases に掲載されている。

～動噴での使用について～

1年以上 MIX 法を豚舎で実施している家畜改良センター宮崎牧場によると、動力噴霧器の場合は、当初心配されたノズルへのマイクロ水酸化カルシウムの詰まりは今のところないが、使



写真提供：(公社)畜産技術協会

用後は入念に洗浄し、水酸化カルシウムを洗い落とすことが重要となる。車両消毒においても、動力噴霧器を用いての消毒で、特に問題は起きていないとのことだ。

同牧場で使用したマイクロ水酸化カルシウムのコストは水100L当たりの添加量200gで81.4円で、この価格で逆性石けんの消毒効果を強化できるのであればコストパフォーマンスは良いと同センターは評価している。

全開連 交雑種牛 飼養管理の要点①

—商品価値の高い枝肉に仕上げるには—



今月号より、全開連が発行したマニュアルである「交雑種牛飼養管理の要点—商品価値の高い枝肉に仕上げるには」の内容を複数回に分けて紹介する。

〈はじめに〉

開拓牛生産事業は、開拓農協組織再編の中、67年に始まった。酪農の副産物であり、当時は価値が低かった乳用種雄子牛を去勢して、配合飼料で肥育し、国民の食料増産の一翼を担って60年の節目を迎える。近年、子牛の生産基盤は縮小傾向にあり、飼養品種は乳用種が減少し、乳交雑種や黒毛和種へ

の飼養品種の切り替えが進み、経営形態も多様化してきた。

紹介するマニュアルは、飼養期間短縮による温室効果ガス削減対策と、品種改良に即した商品価値をこれまで以上に高め、流通・消費者のニーズに合った開拓交雑種牛を生産し、安定的な販売を通じて経営改善を図るために、生産者が行うべき基本的かつ具体的な手法について記述している。

このような時期だからこそ、日頃の飼養管理を再点検し、資産を増加させる経営戦略の一つに役立てたい。

なお、交雑種肥育における生産目標

重点ポイント

○予防衛生管理強化による事故の軽減

事故が経営に及ぼす影響は大変大きいので、疾病が多発しやすい哺育期、育成期の飼養管理と外的要素が大きい環境管理を重視。

○育成期から肥育前期における腹づくりの徹底

内臓・骨格形成期に良質粗飼料を効率よく十分に摂取させることで、たんぱく質、カルシウムを充足させ、肥育期での配合飼料摂取量の高位継続を促す。

○後期飼料への切り替え方法の徹底

配合飼料の切り替えを的確に行い、粗飼料を十分に摂取させることにより、筋間脂肪の蓄積を抑え、胸最長筋面積および周囲筋（頭半棘筋、背半棘筋、腹鋸筋（ばら））の発達を促し、歩留基準値の向上と脂肪交雑を増進させることが可能。

○肥育ステージごとの適切な飼料給与

肥育前期、肥育中期、肥育後期、それぞれの段階における飼料給与方法について、詳しく解説。

○適切なビタミンAコントロール

ビタミンAの特性を理解したうえでこれを利用し、適切なコントロールを行うことで、増体と肉質の両立を図る。品種改良はさらに進み、肉質、増体系の発育に欠かせない微量要素の存在も注視する必要がある。



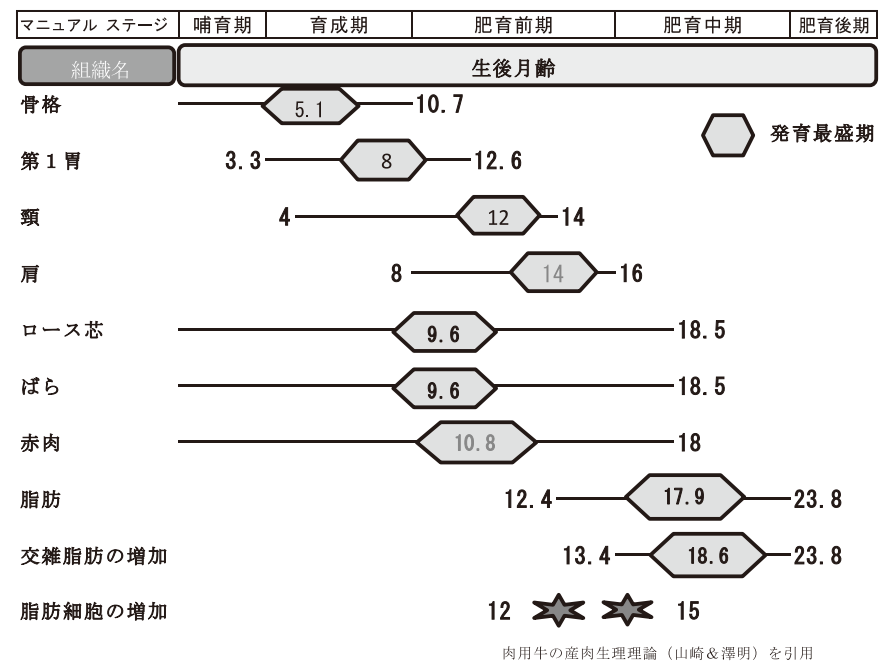
は、経営規模や地域の現状、生産形態・販売方法によって全国一律にできるものではなく、それぞれの経営に応じた目標を立てて管理することが重要となる。

〈重点ポイント〉

交雑種肥育は、産肉生理理論に基づいて乳交雑種の特性を活かし、枝肉重量を確保しながら、その牛の能力を十分に引き出した、付加価値の高い牛肉を生産することが目標である。それに伴い、マニュアルでは図1の項目に重点を置いている。

また、マニュアルでは、発育ステージを以下のように分けている。

図2 各組織の発育時期



牛、豚ともに飼養戸数・頭数が減少 26年畜産統計

農水省は7月28日、畜産統計（26年2月1日現在）を公表した。それによると、乳用牛、肉用牛、豚ともに前年に引き続き、飼養頭数、飼養戸数のいずれも減少している。

〈乳用牛〉

全国の飼養戸数は1万800戸で、前年に比べ500戸（4.4%）減少した。飼養頭数は128万6000頭で、7000頭（0.5%）減少した。1戸当たり飼養頭数は4.7頭（4.1%）増え、119.1頭となった。飼養頭数の内訳をみると、経産牛は80万7000頭で1万3100頭（1.6%）減少、未

経産牛は47万8800頭で6000頭（1.3%）増加した。

成畜（満2歳以上の牛及び2歳未満のうち、すでに分娩経験のある牛）飼養頭数規模別にみると、飼養戸数は「200頭以上」の階層で増加したが、これ以外の階層では減少した。飼養頭数は、「1～19頭」、「50～79頭」及び「200頭以上」の層で増加したが、それ

用種は発動しなかった。

2品種ともに発動がなかったのは16年(平成28年)6月分以来であり、10年ぶりにともに発動がなかったことになる。

交雑種・乳用種ともに販売価格が高い水準を保っており、標準的生産費を交雑種は大幅に、乳用種はわずかに上回ったことで発動はなかった。

10年ぶりに乳・交雑発動なし 牛マルキン6月分

農畜産業振興機構は8月7日、肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）の交付金単価（26年6月分、確定値）を公表した。

肉専用種（兵庫県のみ）で標準的販売価格が標準的生産費を下回ったため、交付が行われる。交雑種および乳

- ①哺育期：生後3ヵ月齢まで
- ②育成期：4～8ヵ月齢まで
- ③肥育前期：9～15ヵ月齢まで
- ④肥育中期：16～21ヵ月齢まで
- ⑤肥育後期：22ヵ月齢～出荷まで

〈産肉生理理論〉

牛の体は、脳⇒骨⇒筋肉⇒脂肪の順に発育する（図2）。栄養は、脳や頭のように早い時期に発達する部分に優先的に送られる。そのため、初期段階で栄養不足になった場合、次に発育する骨には栄養が行き渡らない。筋肉や脂肪など発育時期が遅い組織ほど、栄養不足による影響は大きくなる。

肥育の体構成（枝肉中の骨・筋肉・脂肪の割合）は、肥育パターン（増体のさせ方）によって異なる。胃袋等の内臓が最も発育する時期は、8ヵ月齢をピークに13ヵ月齢までとされている。

減少した。

総飼養頭数規模別にみると、飼養戸数及び飼養頭数は、いずれもすべての層で減少した。規模別の構成比は、「500頭以上」の層が飼養戸数では2.4%だが、飼養頭数では45.9%と半数近くを占めている。

〈豚〉

全国の飼養戸数は2880戸で、前年に比べ250戸（8%）減少した。飼養頭数は875万6000頭で、前回より4万2000頭（0.5%）減少した。1戸当たり飼養頭数は229.4頭（8.2%）増え、3040.3頭となった。

飼養頭数の内訳をみると、子取り用めす豚は74万3300頭で1万5000頭（2%）減少し、肥育豚は730万9000頭で5万3000頭（0.7%）減少した。

飼養頭数規模別にみると、飼養頭数は「1～99頭」、「500～999頭」の層で減少したが、それ以外は増加した。規模別の構成比は、「2000頭以上」の層が飼養戸数では31.9%、飼養頭数では76.2%となっている。

以外の層では減少した。規模別の構成比は、「200頭以上」の層が飼養戸数では6.6%、飼養頭数では34%を占めている。

〈肉用牛〉

全国の飼養戸数は3万1800戸で、前年に比べ2200戸（6.5%）減少した。飼養頭数は247万3000頭で、12万2000頭（4.7%）減少した。1戸当たり飼養頭数は1.5頭（2%）増え、77.8頭となった。

飼養頭数の内訳をみると、肉用種は175万5000頭で9万6000頭減少し、このうち、子取り用めす牛は57万5500頭で3万5900頭（5.9%）減少した。乳用種は71万7600頭で2万6200頭（3.5%）減少した。

乳用種のうちホルスタイン種他は17万7400頭で7000頭（3.8%）減少し、交雑種は54万300頭で1万9100頭（3.4%）

地元の絆を子どもたちに繋ぐ 第49回富士ヶ嶺開拓祭・山梨県

山梨県富士河口湖町の富士ヶ嶺開拓地は8月11日、「第49回富士ヶ嶺開拓祭」を開催した。同地区は富士山の北西麓で、本栖湖との間に位置する。

初めに、開拓碑と畜魂碑で神事が行われ、渡辺町長、クレイン農協(旧富士豊茂農協)藤波組合長等、多くの来賓が出席した。

続いて地元の子どもたちが神輿を担ぎ、霊峰富士山に向かって練り歩いた。

午後からは、同じ町の中学校出身の「白檀」による和太鼓演奏が行われ、富士ヶ嶺地区の子どもたちも参加して迫力ある演奏となった。

その後、乳飲料の早飲み大会や、マスのつかみ取りなど、様々なイベントが催され、子どもも大人も楽しめる祭りとなっていた。また、焼きそばやかき氷などの出店も、自前で運営していた。

この行事を末永く続けていくために、昨年からクラウドファンディングを立ち上げ、支援を募ることとした。

富士ヶ嶺区長の市川光明氏は「先人から受け継いだ開拓精神と地域の絆を、より良い形にして次の世代に繋いでいきたい」と話してくれた。同開拓祭は、来年50周年記念を迎える。



左下…白檀による和太鼓、右下…マスのつかみ取り
上…富士山を目指し神輿を担ぐ子どもたち



牛枝肉

夏休み明け、動きは鈍いが弱もちあいまでか

7月の相場は盆前需要で堅調な動きとなった。夏休みが過ぎると動きは鈍くなるが、乳用種・F₁は弱もちあいか。

【乳去勢】7月の東京食肉市場の乳牛去勢B2の税込み枝肉平均単価(速報値)は、1322円(前年同月比107%)となり、前月より25円下がった。

8月に入り、B2で1300円を切る動きになってきた。出荷頭数は前年よりやや増える予測なので、弱もちあいでの推移となりそう。

【F₁去勢】7月の東京食肉市場の交雑種去勢の税込み枝肉平均単価は、B4が1945円(同111%)、B3が1885円(同116%)、B2が1828円(同123%)だった。前月に比べ、B4が100円、B3が70円、B2が73円、それぞれ上昇した。

8月に入ると、B4で2000円前後の推移となったが、お盆を過ぎれば動きは弱まるが、1900円台は維持できるか。

【和去勢】7月の東京食肉市場の和牛去勢の税込み枝肉平均単価はA5が2664円(同108%)、A4が2462円(同113%)、A3が2367円(同117%)だった。前月に比べ、A5が20円、A4が10円、A3は1円ともに上がった。

8月になると、A4で2500円前後の相場となってきたが、こちらもお盆を過ぎると動きは鈍くなってくる。頭数の減少は続くが、やや弱含みの展開か。

【出荷頭数】8月の出荷頭数は、和牛3万5600頭(同94%)、交雑種1万8200頭(同96%)、乳用種2万2000頭(同103%)と、乳用種以外は減少傾向となっている。

【輸入量】農畜産業振興機構は8月の冷蔵・冷凍品の輸入量を総量で3万

9100t(同91%)と予測。内訳は、冷蔵品1万4800t(同99%)、冷凍品が2万4300t(同86%)。

向こう1ヵ月の東京食肉市場の税込み枝肉平均単価は、乳去勢B2が1250~1350円、F₁去勢B4が1850~1950円、同B3は1800~1900円、同B2が1750~1850円、和牛去勢A5が2550~2650円、同A4が2350~2450円、同A3が2250~2350円での推移か。

豚枝肉

猛暑による頭数減が、相場に影響を与えるか

7月の東京食肉市場の豚枝肉税込み平均単価は、上物730円(前年同月比84%)、中物は706円(同96%)となった。前月に比べ上物が62円、中物は57円ともに上がった。

前年7月の900円超えという相場高騰とはならなかったが、それでも上・中ともに700円台はキープしている。

8月に入り、例年相場は下降傾向となるが、猛暑による頭数減は相場に影響

畜産物需給見通し

響が出そう。

農水省の肉豚生産出荷予測によると、

8月は108万頭(前年同月比92%)と、かなり減少する予測となっている。今年の夏も猛暑が予想されることから、出荷頭数のさらなる減少も示唆される。

農畜産業振興機構の需給予測によると、8月の輸入量は

総量で8万6600t(同117%)と、かなり増加する見込み。内訳は、冷蔵品3万6200t(同119%)、冷凍品5万400t(同115%)。輸入豚肉の需要が堅調となり、スペイン産の代替えでブラジルなどからの輸入増加が見込まれる。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、頭数減でもちあいが予想される。上物が650~750円、中物も650~750円での推移か。

7月の子牛取引状況

(単位:頭、kg)

ブロック名	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		単価/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	426	546	314	316	280,239	257,712	892	816
	F ₁ 去	2,241	1,982	343	345	483,927	502,333	1,411	1,456
	和去	3,509	2,714	350	345	905,636	899,058	2,588	2,606
東北	乳去	2	10	268	310	262,900	229,900	981	741
	F ₁ 去	-	2	-	307	-	397,650	-	1,295
	和去	2,148	2,261	334	336	900,859	883,853	2,699	2,634
関東	乳去	59	39	307	310	294,595	315,192	961	1,017
	F ₁ 去	70	121	364	364	521,966	493,782	1,436	1,355
	和去	770	955	343	337	904,600	903,492	2,641	2,679
北陸	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	1	-	284	-	341,000	-	1,201	-
	和去	56	183	287	311	791,116	833,716	2,757	2,677
東海	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	61	60	339	339	477,202	478,482	1,408	1,412
	和去	375	169	288	283	902,419	900,028	3,136	3,177
近畿	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	344	336	260	273	902,074	973,009	3,472	3,568
中国	乳去	20	36	307	313	245,685	250,861	801	801
	F ₁ 去	307	331	343	346	495,502	499,938	1,444	1,445
	和去	555	739	320	318	884,654	852,138	2,764	2,682
九州・沖縄	乳去	4	2	326	349	219,450	253,550	673	727
	F ₁ 去	330	319	338	339	540,707	534,045	1,600	1,577
	和去	9,154	7,792	310	314	876,355	892,075	2,827	2,839
全国	乳去	511	633	313	315	280,001	260,412	895	827
	F ₁ 去	3,010	2,815	343	345	492,033	504,694	1,434	1,463
	和去	16,911	15,149	322	323	887,920	892,049	2,758	2,762

注) (独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。

価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。

関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

【乳素牛】7月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格(左表、月末の